

さいたま市長定例記者会見

令和4年3月17日（木曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
 それでは、記者クラブ幹事社、産経新聞さん、進行をよろしく願いいたします。
- 産経新聞 産経新聞と申します。今月の幹事社でございます。よろしくお願いいたします。
 それでは、今日の記者会見の内容につきまして、清水市長から説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。

 昨夜、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震がありました。宮城県、福島県では多くの被害が発生しており、またお亡くなりになられた方もいらっしゃいます。お亡くなりになられた方の御冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

 本市の状況につきましては、救急搬送が5件、火災が1件でした。気象庁は、揺れの強かった地域では、今後1週間程度、最大震度6強程度の揺れに警戒するよう呼びかけています。市民の皆様におかれましても、地震が発生した際には、まずはご自身の身の安全を確保していただくことが重要となりますので、ご家庭の非常持出品や備蓄品を御確認いただくとともに、地震への警戒をお願いしたいと思います。

 さて、前回3月3日の私の会見におきまして、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や主権侵害に対して強く抗議するとともに、抗議文の送付や救援金箱の設置についての表明をいたしました。

 その後2週間が過ぎましたが、軍事侵攻はさらにエスカレートし、戦況は激しくなるばかりです。様々なメディアでこれらの惨状を目にするたびに、本当に心が痛みます。

 現在、国におきましては、ウクライナから避難される方々の受け入れ拡大に向けた体制づくりが進んでいます。さいたま市におきましても、ウクライナ語またはロシア語で生活相談ができる窓口を来週から設置できるよう準備を進めています。

また、市営住宅の確保のほか、就学や就労の支援についても準備を進めています。ウクライナから避難された方々が安心して本市に滞在していただけるよう、国との調整を行いながら、しっかりと対応してまいりたいと考えています。

市長発表：議題「新型コロナと戦い、市民の命とくらしを守り抜く～さいたま市緊急対策第18弾～」

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

議題「新型コロナと戦い、市民の命とくらしを守り抜く～さいたま市緊急対策第18弾～」について説明します。

説明順については、まず初めに、本市の新型コロナウイルス感染症の状況について説明し、次に、新型コロナウイルスワクチン接種事業について、最後に、さいたま市緊急対策第18弾の内容について説明します。

まず、最新の本市の感染状況につきましては、3月15日時点で、市内の検査で陽性が判明した方が累計で7万215人です。3月14日現在の調査中を含む感染経路不明者の割合が63.7%、同日現在の陽性率は58.9%となっています。

先週1週間の新規陽性者数は4,867人で、先々週から1,446人減少しています。

週別の新規陽性者数の推移につきましては、こちらのグラフを御覧のとおり、2月の中旬にピークを迎えた後は緩やかな減少傾向にあります。

直近3月6日の週におきましては、4,867人となっており、5,000人を下回るのは7週ぶりとなります。

また、日別の新規陽性者数については、左上のカレンダーのとおり、今週に入り500人前後の発生が確認されており、前の週の同じ曜日と比較して下回る状況が続いています。

次に、市内居住者の感染傾向について説明します。3月14日時点の「入院」「宿泊」「自宅」を合計した療養中の方は9,092人となっています。前週3月7日と比べますと、1,729人の減少となっています。

また、自宅療養者の方については、新規陽性者数の発生状況に合わせて徐々に減少してきています。

次に、直近4週間における新規陽性者の年代別の内訳についてですが、

50代以下が約9割を占める状況が継続し、10代以下の割合の増加も続いている状況です。

本市の感染状況は、緩やかな減少傾向にありますが、いまだ多くの新規陽性者が確認されている状況です。3月、4月は年度替わりの時期であり、卒業・入学や入社・人事異動などはもとより、お花見なども含め、様々な行事が行われる時期でもあります。人流の増加が見込まれ、新規陽性者数の下げ止まりや再拡大が懸念されます。

市民の皆様におかれましては、マスクの着用や手洗い、うがいなど、引き続き基本的な感染予防策を徹底していただくようお願いいたします。

次に、本市の新型コロナワクチン接種の状況について説明します。3月17日時点での接種済の割合は、1回目が87.0%、2回目が86.4%です。

3回目については、(接種済の割合が)34.8%、39万1,143人が接種済みとなっています。

なお、本日までの3回目接種用クーポン券の発送済数は、60万3,565件となっています。

続きまして、3月と4月の集団接種会場について説明します。今後1か月の間に約25万人に接種用クーポン券を発送する見込みです。希望する方が速やかに接種を受けていただけるよう、現在10区全てに開設している集団接種会場を4月以降も継続して開設します。

これにより、4月の集団接種会場の予約枠数は合計約7万5,000人分となります。

引き続き、接種の加速化を図り、追加接種を確実に実施してまいります。

現在、市が受付をしている3月の予約状況は、ファイザー社製が100%近い予約率ですが、モデルナ社製が3月14日からの週で57%、3月21日からの週は約31%と、まだ余裕がある状況です。

ワクチンの感染予防効果等は時間の経過に伴い、徐々に低下していくことが様々な研究結果等で示されています。

また、オミクロン株の感染状況はまだ予断を許さない状況が続いています。

「3回目のワクチン接種は、種類よりもスピードを」ということで、市民

の皆様には、できるだけ早めの接種を御検討いただきたいと思います。

次に、小児への接種について説明します。現在、基礎疾患を有する方や11歳等の方の予約を先行して受け付け、市内の医療機関で接種を進めています。

一方、感染者全体に占める10歳未満の方の割合が高い状況が続いています。こうしたことを受けて、4月上旬を予定していた5歳から10歳の方の予約開始日を前倒しして、明日3月18日から受付を開始することにしました。

こちらの二次元コードでアクセスできるさいたま市ホームページでは、ワクチン接種による予防効果と副反応のリスクについてお知らせしています。接種に当たりましては、予防効果や副反応のリスクについて正しく理解していただいた上で、接種の御検討をお願いしたいと思います。

次に、「さいたま市緊急対策第18弾」について説明します。本市の新型コロナウイルスの感染拡大に対する基本的な考え方は、御覧のとおり4つの柱で進めています。

本日発表するのは、2月定例会で議決された令和4年度当初予算の追加補正による「緊急対策第18弾」です。重点的な取組①の柱のもと実施するもので、2つの取組について説明します。

1つ目の取組は、小児への新型コロナウイルスワクチン接種を行っていただく医療機関に対して、接種1回当たり2,000円の負担金を支給するものです。希望する方への接種を速やかに実施するためにも、医療機関の皆様にはぜひ御協力いただきたいと思います。

次に、2つ目の取組は、感染拡大期における高齢者や障害者施設での集団感染を防止するため、施設の新規入所者や従事者等に対するPCR検査を実施するものです。検査を実施することにより、新型コロナウイルス感染症の早期発見と集団感染の予防につなげていきたいと考えています。

今回の緊急対策第18弾は、(約)7億9,000万円の予算となります。令和2年度から4年度までのコロナ対策予算の累計は、(約)2,905億円となります。

厳しい状況は続いています。引き続き、きめ細やかな支援を展開してまいります。

私からは以上です。

議題等に関する質問

- 産経新聞 ありがとうございました。
清水市長からの説明について各社さん、質問がありましたらよろしくお願
いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
ウクライナの避難民の支援なのですけれども、ウクライナ語、ロシア語の
窓口設置、具体的にはどこに設置するのか。
あと、市営住宅確保ということですが、どれぐらいの規模なのか。
あと、就労、安心して滞在できるようにしっかりと対応するというのは、
具体的にどういうふうに支援するのか。
あと、生活困窮者の方向けに毎年ホテルなんかも用意されていますけれど
も、その辺の活用なんかはどうするかというのを教えてください。
- 市 長 まず、相談窓口については、公益社団法人さいたま観光国際協会の国際交
流センターにおいて、多言語での生活相談を実施しています。基本的にはそ
こが窓口になると思います。
また、通訳・翻訳ボランティアの登録制度もありますので、必要な方に対
してボランティアの派遣も行っています。
現在、同センターにはウクライナ語及びロシア語の通訳・翻訳ボランティ
アも数名登録者がいますので、そういった中で対応してまいりたいと考えて
います。
2点目の住宅の関係ですが、市営住宅については、現在確保がすぐにでき
るのが8戸程度ですが、国との調整が必要になりますけれども、20戸程度
は確保できるのではないかと考えています。
また、それ以外の対応については、今後国との調整を進めながら検討して
いきたいと考えています。
今後住む場所だけではなく、就学等様々な支援も必要になると思います。
そうした中で、どういった組織でやっていくのかということについては、今
幾つかの部署で検討させているところですので、部局横断的にしっかりと対応
できるような体制を組んでいきたいと考えています。
- 埼玉新聞 窓口は、観光国際協会ということですが、その部局横断的な組織の

中心になるのはどちらの課になるのでしょうか。

- 市長 それについては、庁内で今調整しているところです。
- 埼玉新聞 あと、ウクライナの方というのはさいたま市内で何人ぐらいいらっしゃるのか。
- 市長 ウクライナ国籍の方は、さいたま市内には（令和4年1月31日現在）18人いらっしゃいます。
- 埼玉新聞 18人の方の留学とか、そういった個別のほうはお分かりでしょうか。留学生だとか、ご結婚されているとか。
- 事務局 今の御質問は、市内にいる18名の方の中に留学生がいるかどうかという御質問でよろしかったでしょうか。
- 埼玉新聞 18の方が留学生だとか、在留資格があるとか、そういった別が分かれば教えていただきたいということ。
- 事務局 永住者の方もいらっしゃいますし、家族として滞在している方もいらっしゃいます。それぞれ様々です。
- 埼玉新聞 あと、今のところウクライナの方、関係の方とかからさいたま市に相談というのはございますか。
- 事務局 今のところはございません。
- 東京新聞 東京新聞です。
冒頭の御挨拶のところでありました昨日の地震の被害について教えてください。救急搬送が5件と火災が1件ということでしたが、それぞれ具体的な、軽症であったのかとか、何が燃えたのか、どこなのかとか、その辺りを教えてください。
- 事務局 まず、負傷者の状態ですけれども、先ほど5名の方を搬送したということですが、事案としては6件でして、うち1件は不搬送となっています。そのほか5件についてはいずれも軽症で、急病がそのうち2件、けがをされたというものが3件です。
火災につきましては、今把握しているものでは、3月16日23時47分覚知の火災で、場所は岩槻の大字黒谷地内、燃えたものについてはリサイクル品100立方メートルで、負傷者の発生はありません。
- 東京新聞 火災のほうは、けが人はいないということでもいいですか。
- 事務局 けが人はおりません。

- 東京新聞 あと、昨日例えば災害対策本部なり、連絡室なりというのができたり解散したりとかはしたんでしょうか。
- 事務局 昨日は、本市は震度4でしたが、日本各地で震度6弱以上の地震があった場合、情報を集約しなくてはいけないということで、防災課に職員5名、参集時刻が午前0時で、特段市内に異常等はありませんでしたので、午前2時半で2名を残して情報収集に当たっているところです。午前8時半からは通常体制で情報収集に当たっております。
- 東京新聞 ちなみに、市長は起きていらっしゃいましたか。
- 市長 はい、起きておりました。
- 東京新聞 びっくりしましたか。
- 市長 そうですね。1回目が少し軽いものでしたが、2回目はかなり時間的にも長かったし、横揺れで、体感ではかなり震度は大きいのかなと感じました。11年前の3月11日の東日本大震災と似たような時期でしたので、かなり緊張も走ったところでありましたが、震度4以下ということでしたので、待機しながら情報を適宜受けていたという状況です。
- 事務局 訂正1件よろしいですか。先ほど地震に伴う負傷者の関係ですが、程度につきましては急病の方1件は中等症となっています。ですので、急病で2件搬送した方のうち、1件が軽症、1件が中等症です。訂正させていただきます。
- 読売新聞 読売新聞です。
今の地震の関係で引き続いての質問にはなるんですけども、この中等症と軽症、けがの方、状況とそれぞれどういう状況で搬送されたのか教えてください。
- 事務局 まず1件目が、85歳の女性の方で、地震の際に一時的に意識消失をしたということで、この方は軽症です。
2件目が、74歳の女性の方で、これは地震で慌てて立ち上がって転倒し、足からの出血ということで、こちらの方も軽傷です。
3件目が、28歳の男性で、少し驚いて呼吸が速くなってしまったということですが、こちらに関しては救急隊到着後落ち着いたということで、搬送を辞退されています。
4件目が、73歳の男性で、こちらも転倒し、顔をけがされたということ

で、打撲で軽傷です。

5件目が、84歳の男性で、地震が起きて立ち上がった際に足元がふらついて後方に転倒ということで、こちらの方も軽傷です。

最後が70歳の女性で、地震後から動悸がするというので、こちらの方が中等症となっています。

以上です。

○ 読売新聞

読売新聞と申します。

地震の関連で追加でもう一点伺いたいんですけども、先ほど火災のお話ありましたけれども、これは地震に関連した火災と市側は見ているという認識でよろしいんですか。それともたまたま発生時間が地震の後だったというだけなのか、お願いします。

○ 事務局

今回の火災については、地震に伴って、積んであったバッテリーが荷崩れを起こしたことによって出火したということで、現在調査中です。

幹事社質問：今年度の市政を振り返っての所感

○ 産経新聞

それでは、今月の幹事社質問ですけども、今日が年度内の最後の定例会見ということで、清水市長の今年度の振り返りをちょっとお願いできればと思います。よろしくお願いします。

○ 市長

それでは、幹事社の御質問にお答えします。

今年度を振り返ってということですが、まず、令和3年度もコロナ禍への対応に全力を傾けた1年でした。特に昨年4月から始まったワクチン接種では、医療従事者の皆様や市民の皆様の御理解と御協力により、当初の目標を大きく上回るペースで2回の接種を行い、現在の3回目の接種についても迅速確実な接種に全力を挙げているところです。

これまでに、先ほどの分も含めて18度にわたり、総額約2,905億円規模の緊急対策を発表し、順次取り組んでまいりましたが、今後も市民の命とくらしを守るために全力で取り組んでいきます。

そうした状況の中で、本市は昨年5月1日に、市政のスタートから20周年という大きな節目の年を迎えました。昨年5月1日には、初めてとなる「さいたま市民の日」を迎え、7月には「さいたま市民憲章」を制定することもできました。

ウェブ開催となった記念式典なども含め、20周年を祝う様々な取組を通

じて、改めて市民としての誇りについて考えるきっかけを提供できたのではないかと考えています。

また、昨年開催された東京2020オリンピック競技大会では、本市はサッカーとバスケットボールの会場としての役割を果たしました。本市が世界にスポーツの素晴らしさを発信する拠点となったことを誇りに思うとともに、大会のレガシーをしっかりと継承していきたいと考えています。

市政においては、新たな総合振興計画によるまちづくりがスタートした年度となりました。4月には、「さいたまデジタル八策」を策定し、デジタルファーストな行政運営への転換に着手しました。

また、7月には隈研吾氏を会長とする「(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会」を、8月には「大宮GCS推進戦略会議」を設置するなど、新たな都市づくりをスタートさせることができました。

計画期間である2030年度までの10年間は、本市が人口のピークを迎えるまでの運命の10年であり、引き続き「上質な生活都市」、「東日本の中枢都市」の実現に向けて、各種施策を着実に推進してまいります。

そして、本市誕生以来、残された重要課題である本庁舎整備等の在り方については、昨年12月に「新庁舎整備等基本構想」を策定しました。現在、この市の方針をあらゆる手段を活用して、市民の皆様、企業・団体の皆様への周知に取り組んでいるところです。10年後の新庁舎整備に向け、しっかりと進めてまいりたいと考えています。

コロナ禍で市民の皆さんのくらしや仕事も大変厳しい状況にあったと思いますが、市民意識調査では本市を「住みやすい」、「住み続けたい」と答えた市民の割合は、2年連続でともに85%を超えました。

また、総務省が発表した昨年の転入超過数は、本市誕生以来初の全国1位となり、今年3日に発表された「SUUMO住みたい街ランキング2022首都圏版」では、大宮が(3位)、浦和が5位にランクインし、ともに過去最高の評価をいただくことができました。これらの成果は、多くの皆さんの御尽力の賜物であり、感謝を申し上げます。

令和4年度は、20歳を過ぎたさいたま市が都市としての成熟を深めていくため、新たな一步を踏み出す大変重要な年度になります。誰もが住みやすい、また住み続けたいと思えるさいたま市に向けて、全身全霊で取り組んで

まいりたいと考えています。

以上です。

幹事社質問に関する質問（新庁舎整備について）

- 産経新聞 ありがとうございました。
 今の幹事社質問に関する質問、あるいはほかの質問等あればお願いします。
- 読売新聞 読売新聞です。
 今お話のあった中で、新庁舎整備の在り方についてという話がありましたけれども、先日閉会した2月定例会の中で浦和区自治連合会への丁寧な説明を続けるような趣旨の決議が可決されました。改めまして、市長のこちらへの受け止めをお伺いさせてください。
- 市 長 決議につきましては、議会の意思としてまとめられたものであり、しっかりと受け止めて真摯に対応してまいりたいと考えています。そして、浦和区自治会連合会の皆様をはじめ、市民の皆さんに御理解いただけるように丁寧な説明を継続的に行ってまいりたいと考えています。
- 読売新聞 それとの関連なのですけれども、丁寧な説明を継続的にということですが、既にかなり説明とかもされてこられているかと思うのですが、今後はどのように説明等を進めていかれるか、今お考えのことがあれば教えてください。
- 市 長 すでに様々な形で説明等させていただいておりますが、今後は現庁舎の周辺にお住まいの皆さんへの説明会や、あるいは御要望いただければ引き続き出前講座などによって、いろいろな団体の方々に説明を続けていきたい。また、オンラインなども適宜活用しながら説明を行っていきたいと考えています。
- 埼玉新聞 市庁舎の関連なのですけれども、去年11月の市長定例会見では、急ぎ過ぎている、性急ではないかという指摘が出ている中で、市長は急いでいないという表現でお話ししましたが、今回2月定例会で位置条例も出さずに、補正も出さずに、これは逆にどうしてこうなったのかという説明をお願いいたします。
- 市 長 浦和区自治連からの請願などもあり、十分に地元さらに説明をしていくという必要性を感じましたので、その中で説明をさせていただいたというこ

とです。

- 埼玉新聞 決議には4項目ありますけれども、まちづくりビジョン策定のアクションプランとか、浦和を含む都心の部局横断的な組織を創設するという割と具体的などころがあるんですけれども、この辺の受け止め、対応というのはどうするのでしょうか。
- 市長 個々の項目ごとにはお答えできませんが、いずれにしましても、議会の意思として決議された内容ですので、しっかりと受け止めながら、適切に対応していきたいと考えています。
- 埼玉新聞 改めてですけれども、位置条例とか補正予算についての出す時期というのは、どういったタイミングで出されるのでしょうか。
- 市長 出す時期については、現在は未定です。基本構想の内容についてしっかり周知を行った上で、しかるべきタイミングで提出していきたいと考えています。
- 埼玉新聞 2月定例会では、市庁舎、武蔵浦和学園、あとクリテリウム、3つについて、いずれも説明が足りないんじゃないかという指摘が出ているんですけれども、この点についてはどういうふうを受け止めますか。
- 市長 それぞれ説明等を行って来てはいますが、必ずしも十分ではなかったという御意見を頂戴しましたので、より丁寧に説明していくよう努めていきたいと考えています。
- 朝日新聞 朝日新聞です。よろしくお願いします。
まず、市庁舎の件です。今、位置条例について、いつ出されるか、しかるべきタイミングというふうなお話がありました。一方で、各住民とか自治連に十分な説明会を開いていくというふうな話があったのですが、このしかるべきタイミングというのは、市長が思っているその住民への説明がどこまで説明を尽くせば、そのしかるべきタイミングというふうに見ていらっしゃるのでしょうか。
- 市長 これまでも10区のそれぞれの自治連にすでに説明させていただきました。また、各種団体にも説明させていただいているところです。また、御要望いただいている現庁舎の周辺の住民の皆さんへの説明はこれからということになりますが、いずれにしても今後順次いろいろな説明をしてほしい、あるいは内容を知りたいという、そういった市民の声があると思いますので、

(市民等への説明は) 継続的にやっていくことになると思います。議案が、要するに条例が改正される、されないはともかくとして、(説明は) ずっとやり続けていかななくてはいけないことだと認識しています。その中で理解が深まった段階で、あと10年後ということを目安にしていますので、そのタイミングに遅れないようにということを意識しながら、しかるべきタイミングに出したいと考えています。

○ 朝日新聞 つまりもうその自治会、各10区への説明は終わったということで、市長としてはいつ出してもいけるのではないかというふうに思われているわけですか。要はしかるべきというのと十分な説明を尽くすというのがちょっと矛盾するようなお話なのかなと思ったのですが。

○ 市長 説明については、これまでもやってきていると思っています。また、現在御要望いただいている現庁舎地の周辺の皆さんへの説明も、すでに決議等をいただく前から御要望いただいて準備を進めてきているところです。そういったことについてはしっかりやっていく必要があると思っています。この問題は、条例案を可決する、しないだけではなくて、今後もずっと続いていく問題ですので、引き続き説明をしたり、出前講座で御理解をいただいたりということをやっていきたいと思っています。その中である程度周知を図ったと思われる段階で議案を出していくことになると思います。

幹事社質問に関する質問（SUUMO住みたい街ランキングについて）

○ 読売新聞 読売新聞です。

ちょっと話題は変わるんですが、以前の会見でももしかしたら出た話題かもしれないのですが、スーモのランキングの関係で、大宮が過去最高位の3位、浦和が5位に入ったと思うのですが、こちらの市長が思われる、こういったところが評価されたのではないかというような点があれば教えていただければと思います。

○ 市長 まず、大宮の3位ということですけども、これまで3年ぐらい続けて4位という状況で、4位に最初にランクインしたときには、ベスト3との間は少し離れているような、そんな感じの4位だったと認識しております。年々差が詰まってきているという状況の中で、大宮については、今新しいまちづくりに取り組んでいたり、いろいろな取組をしているのが少しずつ市内

外の方々に知っていただくようになり、期待値も込めて、住みたいまちというところでランキングされたのかなと思っています。

特に交通の利便性ということでは、都内に行くにしても、それ以外の地方に行くにしても、非常に利便性の高い場所であるし、あるいは買物など生活上でも非常に利便性の高い場所であるということから、そういった評価をいただいたと思います。

また、浦和の5位についても、前は8位だったですかね。これまで最高位は(8位)だったと思いますが、第5位に躍進しました。浦和の駅周辺について言うと、子育て中の皆様を含めて、住まいを持ち、定住していこうという意識の高い方々から非常に前向きな評価をいただいているのではないかと考えています。大宮、浦和は地域としての個性に少し違いはありますが、それぞれの個性や魅力を多くの皆さんに理解していただいた結果、3位と5位になったのではないかと思います。

特に浦和区の場合は、今年の市民意識調査の中で、教育を受けさせたいということで住まわれる方が全体の3割ぐらいいらっしゃいました。そういう意味では、教育や子育てをしやすい、そういう環境があるということで選んでいただいたのかなと認識しています。

いずれにしても、このベスト5の中に2つのエリアが入る自治体はこのさいたま市しかありません。これまで御尽力をいただいていた市民の皆さん、あるいは事業者の皆さんに改めて感謝と御礼を申し上げたいと思いますし、このベスト5に2つのエリアが入るということを大変誇りに思います。引き続き、選ばれる都市になれるように頑張っていきたいと思います。

その他：地下鉄7号線延伸について

○ 朝日新聞

引き続き、朝日新聞です。

先週末に、地下鉄7号線(延伸)の特別講演会で講演されて、知事と、あと村井(内閣総理大臣補佐官)と3人講演されました。その中で、知事のお話だと、清水市長のリーダーシップに期待していたりとか、市長を支えていきましょうというような呼びかけがあって、さいたま市が主体的に頑張ってくださいというような、そういうエールがすごく聞こえてきたんですが、実際これから地元自治体として、県とさいたま市が中心にその費用負担も考えていかなければいけないのですが、その辺の費用負担について今後どうい

ふうに試算されていくかというところは今現在どのように進んでいるのでしょうか。

○ 市長 費用負担については、部局長級の会議を設置しておりますので、今後そういった場面で検討していくことになると思います。これまでもこの地下鉄7号線の延伸については、県と市が連携しながら進めてきた事業です。引き続き市としても、まちづくりも含めてやっていくつもりです。今後も市と県が連携しながらこの事業を進めていきたいと考えています。

○ 朝日新聞 あと、講演会の中で中間駅のまちづくりの素案について今年度中に一定の形をつくりたいというようなお話がありました。これ実際もう今月いつ頃までをめどに完成させようというような思いでしょうか。

○ 市長 では、所管からお答えします。

○ 事務局 まちづくりの方針素案については、事務担当では作っておりまして、来年度について、このまちづくりの方針について学識経験者を含む検討委員会を立ち上げて、その中で確定していきたいと考えています。

○ 朝日新聞 では、特に公表されるようなものではないということですか。

○ 事務局 素案ということではなくて、学識経験者の委員会での議論についてはオープンでやっていきたいと考えています。その中で適宜公表していきたいと考えています。

その他：外郭団体に関する包括外部監査について

○ 朝日新聞 あともう一点、今月3日に包括外部監査の報告が市長にもあったと思うんですが、その中で随意契約等の不適切さとか計50件ぐらいの指摘がありました。この件について、市長の受け止めに教えてください。

○ 市長 毎年包括外部監査の皆さんからいろいろ御指摘をいただいております。私たちは、それを受けて、毎年それに対してどういうふうに対応したのか返事させていただいております。今年度の件についても、関係所管としっかり協議しながら、どういう形で対応していくかということを決めて、また包括外部監査への返答といいますか、こういった対策を取りましたということについては、随時発表していきたいと考えています。

○ 朝日新聞 今回テーマが市の外郭団体、出資比率が大体8割から10割ぐらいの外郭団体についての調査だったんですが、その中で幾つかの団体について、相乗効果を期待して統合したほうがいいのかというような公認会計士

の御意見もありました。その辺についてはいかがでしょうか。

- 市長 そういった御指摘もいただいているようですので、今後また外郭団体の在り方については、当選した当初に外郭団体の在り方についての改革を始め、約12年間にわたって統廃合を進めてきたところです。その中で、さらに見直しといたしますか、今後のことも含めてどういう評価をしていくか、これからどういう在り方に変えていくかということについては一定の議論が必要だと、私自身も考えているところでした。そういったことも踏まえながら、包括外部監査の皆さんから御指摘いただいたことにどのように対応していくか決めていきたいと考えています。
- 朝日新聞 では、また改めて近々、大々的に外郭団体について見直しを検討する何か機会を設けられるということですか。
- 市長 これは、庁内で検討を進めていくのか、外部に入っていただくのかは今まだ具体的には考えていませんが、今後の外郭団体がより独立的に運営ができる環境づくりをどういうふうにしていくかということはすごく重要なことだと思っています。12年間やってきたことも踏まえながら、今後の外郭団体、これはさいたま市とある意味ではパートナーの関係でありますので、しっかり自立的な運営ができるかということについて再検討していきたいと考えています。
- 埼玉新聞 今の関連ですけれども、担当のほうは、今すぐ統合はできないというような回答をしているのですけれども、その点はいかがですか。
- 市長 どの部分のことについて、どうお答えしたのか、承知しておりませんが、御指摘いただいたこともそうですし、それ以外の部分もかなりの数の統廃合をしてきました。さらに必要な統廃合もあるかもしれません。あるいは、そうではなくて、もう少しきめ細やかにやったほうがいい、そういうケースも出てくるかもしれません。あと、運営そのものの在り方、運営する人材の偏りというか、年齢層の偏りなども出てきている状況がありますので、そういったことも含めて、総合的な視点から検討していくことが望ましいだろうと私自身は考えています。個別のどの団体がどうすべきかということについては今お答えできません。ただ、そういった御指摘なども含めて検討していく必要があると考えています。
- 埼玉新聞 クリテリウムについても指摘が出ていますけれども、市税を毎年2億円投

入しているんだったら、ある程度どうするかというのもしなさいとなっていますけれども、その点についてはいかがですか。

- 市長 さいたまクリテリウム(を主催しているの)は、さいたまスポーツコミッションで、現時点では外郭という位置づけになっていますが、さいたまスポーツコミッションについても外郭ではない組織に段階的になっていくものと認識しています。このさいたまクリテリウムという事業は、経済効果も非常に多く上げていますし、広告効果も上げていると。しかし、どうやってできるだけ市からの税金の補助を縮減していくかということ、それから大会そのものがどういうものになっていくべきかということについては、さいたまスポーツコミッションと市が連携しながら、その方向性について検討していく必要があると考えています。

幹事社質問に関する質問（新庁舎整備について）

- 埼玉新聞 一旦戻ってしまうのですけれども、市庁舎の関係で、10年後を目指すというふうにおっしゃっていますけれども、ぎりぎりどの段階で条例案とか基本計画とかを出せば間に合うというふうに見ているのか、あと市議会からは合併30周年にこだわり過ぎなくてもいいんじゃないかという指摘もありますので、その点はいかがですか。
- 市長 様々な御意見が議会の皆様の中にもあり、一刻も早く進めてほしいという方々もいらっしゃるし、時期にこだわらずということと言われる方もいらっしゃいます。その中で、市としてはコストなども踏まえて、10年後に新しい庁舎ができることが望ましいという方針を示させていただいています。基本的にはこの10年後の市庁舎移転というのを目指して進めていきたいと考えています。具体的にいつまでに何をしなくてはいけないかということについては、まだお示しすることはできませんが、一定の目安をつけながら進めていきたいと考えています。
- 埼玉新聞 具体的にはいいんですけれども、10年後に市庁舎が完成して稼働するためには、ぎりぎりどれぐらいまでが目安のかなというのは検討されているのかなと。
- 市長 私たちとしては、一刻も早くその作業を進めていくべきだと思っておりますが、市民の皆さんの御理解というのが必要だと考えていますので、(市民への説明を) しっかりやりながら、その上で (条例案や基本計画を) できるだ

けいいタイミングでお出ししたいと思います。

- 産経新聞 ほかによろしいでしょうか。
- 進 行 それでは、以上をもちまして市長会見を終了させていただきます。
 なお、次回の開催は4月7日午後1時半からを予定しております。本日は
 ありがとうございました。

午後 2時20分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。